年長児　卒園記念制作

やまもも保育所　　芳我 岳陽

2月7日（火）、今年度卒園する子ども達と、『みはし工芸』に陶器の絵付け体験に行ってきました。年長児もあと2ヵ月で卒園。“保育所で過ごした思い出を形にしてあげたい”との思いから、卒園記念の一環として毎年行っている行事です。

この行事を誰よりも楽しみにしていたKちゃん。部屋の時計の下に貼ってあるカレンダーを見ては、「ホントに絵付け体験行くの？」と聞いてきて、行くよと答えれば「やったー！」と大喜び。そのやり取りは1月中旬から毎日行われました。

そして当日。

『みはし工芸』に到着し、店の中に入ると、店主の方が笑顔で迎えてくれました。中では生徒のおばあちゃん2人が談笑しながらお皿を作っていて、なんとも和やかな雰囲気。陶芸といえば、寡黙な職人が、静謐な空間の中、黙々と作業している印象があり、子ども達も緊張するかなと思っていましたが、以外にもカジュアルな雰囲気で一安心。それでも職人さんから説明を受ける子ども達の表情は皆真剣。いい緊張感で挑めそうです。

テーブル中央には色を付ける為の釉薬が5種類置かれていました。色と言っても全部茶色やグレーに見えます。焼くと鮮やかに色が現れるとのこと。店主から筆の持ち方や塗り方の説明を受け、いよいよ作業開始！

鉛筆で下書きをして、慎重に筆を滑らせる子ども達。しかし、細かすぎる下絵を筆でなぞるのは至難の技。

行き詰まったOちゃんは、「ちょっと見本見てくる」といってギャラリーへ。そこで見つけた湯呑の色の塗り方が気に入り、そのアイデアを取り入れることに。そこからは間違いを気にして進めない性分の私には羨ましいほど潔く、筆を滑らせていきました。

すいせん組きってのお絵描きマスターKちゃんも、筆で細かく描くのは難しかったようで煮詰まっていましたが、見本を見ることで次第に絵付けのニュアンスを理解していきました。

感覚で理解することが得意なAちゃんは、描けば描くほどコツをつかんでいき、具体的な絵ではなく抽象的な模様を絵付けしていました。因みにAちゃんは教室のおばあちゃん達とすぐに仲良くなり、可愛い可愛いと言われ終始笑顔。

そんな中、4人の中で唯一の男の子I君から質問。「22+23はいくつ？」…ん？ 何を突然、どうした？ ふとI君の茶碗に目をやると、しっかりと鉛筆で「22+23=」と書かれています。そう。就学前は「足し算の答え知ってる自慢」が乱発する時期。きっと「僕は足し算だって小学校にあがる前からできちゃう。だから小学校に入ってもやっていける」と、自分自身に言い聞かせる為のおまじないみたいなものなのでしょう。「百億万」という謎単位と同じくらい全国で自然発生します。

「I君。答えは45だよ。」もちろん正しい答えを教えました。未来の彼が将来茶碗を見て、「オレ、この時期から二桁足し算、イケてたんだ…」と、誇らしく思ってくれたら嬉しいです。

今回の作品は3月10日頃に仕上がる予定です。

どんな風に焼きあがるのか、今から楽しみです。